



# 小田小だより

平成28年 2月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 TEL 045(775)3011

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/>

横浜市立小田小学校

## 凜として、逞しく！ ～春を予感する2月に思いを寄せて～

学校長 木村 昭雄

体感的には極寒の2月ですが、二十四節季では「立春」「雨水」、春を予感する季節です。来る春に備えて、今、何をなすべきなのでしょう。そんな思いを抱きながら二つのお話を綴らせていただきます。

私が小田小学校に着任したばかりのある朝のお話です。  
「忘れ物は、届けることができません。先生、どうぞ叱ってやってください。」  
凜とした声が廊下に響きました。  
事情はこうです。たまたま、ある用事で学校に来られたお母さんを見つけた3年生のA君がお母さんに駆け寄り、  
「〇〇を忘れちゃった。持ってきて・・・」  
と甘えています。そのお母さんは、我が子に向かって  
「お母さんは今から仕事なの。分かっているでしょ。忘れたことを正直に担任の先生に言いなさい。それで叱られても仕方ないでしょ。」  
毅然とした甘えを許さない態度でした。たまたまそこを通りかかった担任の先生に、お母さんが、冒頭の言葉を発したのです。久しぶりに母親らしい母親を見た思いがしました。凜としてしかも優しさに溢れています。我が子の小事を無難に解決してしまうのではなく、長い期間の中で我が子の行く末を見守ろうとする、またしつけようとする頼もしさと信念を感じました。私は、朝から清々しい気持ちになりました。そのお母さんのことですから、きっとその日の夜、我が子にこう言い聞かせたでしょう。  
「叱られたの？そう、それでいいのよ。でも、同じ間違いをしないことよ。失敗したら挽回する。そういう逞しい子になってね。これからもお母さんは、忘れ物を届けたりできないから、夜のうちにもう一度連絡帳を見て、確認しておきなさいね。」

私が小学校の低学年の頃のお話です。  
朝は晴れていたのに、下校時間の頃には大雨になっていました。傘を持ってこなかった友達のお母さんが、次々に迎えに来ていました。足が不自由だった私の母は、大雨のその日も傘を持ってくることはありませんでした。一緒に傘に入って帰ろうよと言う友達のお母さんの優しい言葉を振り切って、1.5キロメートルの家路を急ぎ足でたどり着きました。母を恨みつつびしょ濡れで家に近づくと、玄関先でバスタオルを持って立っている母の姿が見えました。そして、母のお腹目がけて抱きつかしました。  
「雨は冷たかったべ・・・、寒かったべ・・・。」  
私の濡れた頭をぐしゃぐしゃと手荒く拭きながら、  
「次からはちゃんと天気予報ば見で、傘ば持っていぐんだよ。」  
そう言いました。  
足が不自由だった母は、友達のお母さんのように傘を持って迎えに行くことはこれからはできないが故に、きっと、雨の冷たさや靴の中のぐしょぐしょの不快感を体感させることも大切だと考えたのでしょう。今思えば、母の割烹着（エプロン）のお腹の部分はびしょ濡れになっていたはずです。それでも私の身も心もほっかほっかになるまで抱きつかせてくれていました。

子育ての格言に「即座の親の手助けは、百害あって一利なし！」が有ります。身に危険が及ぶ行為、犯罪行為、反社会的行為、他人への迷惑行為などは別ですが・・・。子どもに先ずは考えさせ、体験させ、解決させてみる。親のすべきことは、その解決のためのヒントを与えることではないでしょうか。  
将来の我が子に手を差しのべたいのであれば、なおさら、まさしく今！逞しく育てることが大切だと思うのです。優しさを秘めながら、凜として逞しく！